

平成30年度 徳島県立名西高等学校経営計画

1 学校教育目標

- 1 本校の歴史と伝統を重んじ、知・徳・体の調和がとれた、誠実で民主的・創造的な実践力のある心身ともにたくましい人間を育成する。
- 2 生徒一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばすとともに、個人の尊厳と基本的人権を尊重し、民主社会の実現に貢献できる人間を育成する。
- 3 我が国の文化と伝統を尊重するとともに、平和な国際社会づくりに貢献できる人材を育成する。

2 学校経営計画中期的目標

- 1 真に自分を大切にする教育の徹底により、正しい人権感覚を身につけるとともに、自己実現への意欲や態度を養う。
- 2 芸術科の充実及び国際理解教育の推進を図り、文化の創造と社会の発展に貢献できる人材を育成する。

3 本年度重点目標

- ① 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の充実
- ② 自他を大切にする心や態度を育成
- ③ 社会的自立のために必要な能力や態度の育成
- ④ 基礎的・基本的な学力の育成
- ⑤ 活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成
- ⑥ 地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進
- ⑦ 文化芸術活動における地域への積極的な創造発信
- ⑧ 防災・安全教育の徹底と環境教育の推進

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の充実	①基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の充実	生徒指導課各学年	評価指標	評価指標の達成度	(評定) B	今後も「遅刻ゼロの日」や「考査時の5分前登校」などの取り組みを生徒に定着させ、継続的な指導を行ってほしい。また、次年度は基本的生活習慣を確立させるための指導をさらに深め、数値目標の達成を目指してほしい。	
			① 遅刻者数を20%減少させる。(H29, 785人)	① 毎日の立哨指導や遅刻カードによる指導、また毎朝の声かけ指導など様々な取り組みを実施したが、遅刻者数は1月末までで699名で、昨年度の同時期(692名)と同じレベルであり目標は達成できなかった。			(所見) 様々な取り組みの効果もあり、昨年度より交通事故数が減少するなど、一定の成果は得られた。またスマホの指導についても、スマホマナーアップ運動を生徒会・PTAと連携して推進するなど独自の取り組みを実施することができた。しかし、遅刻者数とスマホの指導の目標を達成することができなかったため、さらに指導方法等の工夫改善を図りたい。
			② スマホマナーアップ運動を充実させ、スマホが原因による特別指導を0にする。(H29, 1件)	② スマホによる特別指導は2件であったが、携帯電話安全教室など様々な取組の効果もあり、深刻な事案ではなかった。			
	③ 交通事故防止と交通マナー向上の指導を徹底させ、登下校における交通事故を2件以内にする。(H29, 2件)	③ 登下校中の接触事故は1件で目標を達成できた。事故も大きくながけではなく軽傷であった。					
	生徒指導課各学年	活動計画	活動計画の実施状況	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個に応じた指導を実施した。また、遅刻ゼロの日の前日には、生活委員が校門前で呼びかけるなどの取組や考査時は5分前登校も実施した。毎朝、声かけ指導もおこなった。	② クリアファイルの配布やポスター掲示をして、スマホマナーアップ運動の浸透に努めた。また、生徒会やPTAも総会で宣言を発表し、運動の推進が図れた。		
		① 「遅刻ゼロの日」や「考査時の5分前登校」の取組を充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。声かけ指導も毎朝実施する。	③ 徳島名西署と連携を図り、交通安全街頭キャンペーン(無事カエル配布)などを実施した。また登校時の街頭指導は毎日実施し、毎月の学校安全の日にも通学指導を実施した。3年生に対しては自動車免許取得説明会も開催した。				
② クリアファイルの配布やポスター掲示など啓発に努める。また、生徒会やPTAと連携を図る。							
	③ 登校時の立哨指導(毎日)、街頭指導(月1回)、交通安全街頭キャンペーン(年2回)、車体検査と通学別集会(年3回)、交通委員会による挨拶運動(月1回)を実施する。						

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	人権教育課	評価指標	① いじめ問題や人権に関する課題について 教職員間で共通認識を持つ。	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 教育活動全体を 通じて人権尊重 の精神の涵養に つとめ、本校の 生徒の実態に応 じた指導の充実 を図ることがで きた。本年度よ り県教委より人 権教育指定研究 を受け、その設 定テーマにした がって、人権H R活動研究・公 開授業の実施や 教職員研修会の 開催等の各種取 組を実践してき た。	生徒の実態に即 して丁寧な指導 で、多くの生徒 が充実した学校 生活を送ってい ることがうかが える。生徒の悩 みや問題行動 も、迅速な対応 で早期解決を図 り、問題の深刻 さを防止してい る。また「名高 人権の日」を設 けるなど、生徒 の人権意識の向 上に、真摯な取 り組みができて いる。
			② 生徒による人権意識を高める活動を推進 する。	② 「名高人権の日」校内放送や人権標語の クラス掲示、生徒会人権委員会活動を通 じて推進できた。			
			③ 3年生対象の「人権に関する意識調査」 において、人権課題に取り組む意欲を示 す回答を9割以上にする。(H30 年:89%, H29年:92%)	③ 「意欲的に取り組んだ」、「ある程度取 り組んだ」を合わせておおむね9割近 くの回答を得たが、昨年度より意欲が減少 した人が微増した。			
	人権教育課	活動計画	① 学年検討会や人権教育研修会を開催したり、 校外の研修会に参加して職員会議等 の機会にその報告を行ったりする。	活動計画の実施状況	① 人権HR活動の事前検討会を各学年で必 ず実施し、校内教職員人権教育研修会 は3回実施した。校外研修報告は職員 会議でその都度行った。	総合評価 (評定) B (所見) いじめ防止の取 組を徹底し、大 きないじめ問題 が発生すること はなかった。ま た教育相談で は、ケースに応 じた各種会議を 実施し、生徒理 解やその対応に ついて共通理解 に努め、適切な 対応ができた。	
		② 生徒会の人権委員会による人権に関する 取り組みを行う。	② 文化祭人権展の実施、「名高人権の日」 校内放送、人権新聞発行等を通して人 権啓発に取り組んだ。				
		③ 人権や人格を尊重し、いじめや差別を許 さない生徒の意識や態度を育てる人権 HR活動や人権映画鑑賞会等を行う。	③ 人権HR活動を年5回実施した。第4回 は全クラス公開授業で実施し、いじ めや差別を許さない人権意識を高 めた。				
	生徒指導課 教育相談	評価指標	④ 学校いじめ防止方針に基づき未然防止に 努め、いじめによる特別指導を0にす る。(H29, 0件)	評価指標の達成度	④ いじめによる特別指導は1件あったが、 早期発見し、迅速に対応したので深刻 ないじめ問題には発展しなかった。	総合評価 (評定) B (所見) いじめ防止の取 組を徹底し、大 きないじめ問題 が発生すること はなかった。ま た教育相談で は、ケースに応 じた各種会議を 実施し、生徒理 解やその対応に ついて共通理解 に努め、適切な 対応ができた。	
		⑤ 生徒理解に努め、必要に応じた職員研修 やケース会議が実施する。	⑤ 生徒の実態調査を基に、情報共有のため の職員研修を行った。また、必要に応 じて、教科担任会などのケース会を行 った。				
	生徒指導課 教育相談	活動計画	④ アンケートを年2回実施し、早期発見に 努める。また、いじめは絶対に許さな いという姿勢を全校集会等で明確にし、 生徒が相談しやすい環境をつくる。	活動計画の実施状況	④ 本校の実態にあった年間計画を作成し、 アンケート調査(年2回)や個別面談な どの取組を行うことで生徒の悩みや対 人関係の状況を把握し、未然防止に努 めた。	総合評価 (評定) B (所見) いじめ防止の取 組を徹底し、大 きないじめ問題 が発生すること はなかった。ま た教育相談で は、ケースに応 じた各種会議を 実施し、生徒理 解やその対応に ついて共通理解 に努め、適切な 対応ができた。	
⑤ 特別支援教育の視点で、生徒実態調査 を、年1回行い、その結果を教職員研修 会で情報共有する。支援が必要な生徒に ついては、年間2回以上ケース会を行 う。		⑤ 生徒実態調査を11月に行い、12月に 情報共有のために職員研修を行った。 支援が必要な生徒についての保護者面 談、教科担任会など2回以上行うこと ができた。					

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	保健厚生課	評価指標	評価指標の達成度	(評定) B (所見) 昨年度より健康 相談活動による 件数は減少して いるものの、学 校医による健康 相談、スクール カウンセラーに よるカウンセリングの希望は増 加している。	次年度も、関係 機関と連携を図 りながら生徒の 健康の保持増進 に努めてほし い。	○生徒の心身の 健康問題を把 握、支援するた めには本人を取 り囲む周囲の存 在が非常に大き い。担任、保護 者へのみ情報が 集中するのでは なく、他の関係 職員や外部相談 機関等が相互に 情報交換ができ る機会をさらに 設けることが今 後の課題と考 えている。
			⑥ 生徒の心身の健康問題について、担任・保護者や必要に応じて専門の相談機関等と連携し健康相談活動を行う。(H29, 11件)	⑥ 身体的不調の背景に心の健康問題を抱えている生徒の継続的支援を行った。(H30, 8件) スクールカウンセラー派遣事業活用。(H30, 1件)			
		⑦ 毎学期1回以上学校医による健康相談を実施し、生徒の健康の保持増進に努める。(H29, 2回実施)	⑦ 生徒が心身の健康について専門的な立場からの助言を得る機会を設けた。(H30, 6件 内4件は3月実施予定)				
		活動計画	活動計画の実施状況				
	保健厚生課	⑥ 保健室の機能を生かしながら担任、保護者と連携を図る。必要な場合はサポートセンター等専門の相談機関につなげる。	⑥ 生徒の心身の健康問題について保護者、担任、関係職員が相互に情報交換をとれるよう連携に努めた。また、スクールカウンセラー派遣事業の申し込み、実施を行った。				
	⑦ 希望者または必要とする生徒に対して学校医による健康相談を実施する。	⑦ 心身の不調を継続的に感じている生徒、または養護教諭が専門的な立場からの助言が必要と判断した生徒に対して健康相談を計画、実施した。					
②自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	保健厚生課	評価指標	評価指標の達成度	(評定) B (所見) 保健室において 二次検診の受診 対象者に個別指 導を行った上で 通知を行った結 果、内科、心電 図検査の全員の 二次受診を完了 することができ た。	二次検診の完全 受診を、次年度 も目指してほし い。	○健康診断は生 徒が心身ともに 健康な学校生活 を送るため不可 欠な基本情報と なるため、今後 も全員受診を目 標としたい。特 に結核検診は高 校に進学してから 初めて実施する 項目であるため 、不安も大きい 。事前の啓発に 力を入れてお きたい。
			⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了する。(H29 二次検査、内科1人未受診 結核、心電図全員完了)	⑧ 内科検診、結核健診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了することができた。			
		⑨ ほげんだよりを毎月発行する。(H29, 毎月発行) 健康や性に関する講演会を年1回以上実施する。(H29, 1回実施)	⑨ 保健だよりを毎月発行することができた。健康や性に関する講演会を学校医を講師として迎え、二学期に1回開催することができた。				
		活動計画	活動計画の実施状況				
	保健厚生課	⑧ 健康診断の結果、未受診者や二次検査が必要な生徒に対して受診指示を周知徹底する。	⑧ 未受診者や二次検査が必要な生徒に対して受診の必要性を説明し、個別指導に努めた。				
	⑨ ほげんだよりを通して健康への関心を高める。定期的に健康や性に関する講演会を実施する。	⑨ 生徒保健委員会が毎月の健康特集について情報収集し、作成をするよう計画、実施をした。「若者に広がる性感染症」をテーマに講演会を計画、実施した。					

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策		
			評価指標と活動計画		評価				
	②自他を大切に する心や態度を 育成	特別活動課	評価指標	⑩ 「あいさつ運動」を毎週2回以上実施する。	評価指標の達成度	⑩ 「あいさつ運動」週2回実施できた。	総合評価 (評定) A	生徒を中心とした「あいさつ運動」が定着していることは素晴らしい。次年度も、学校全体として取り組みの輪がさらに広がることを期待する。	○生徒数は減ってきているが、さらに多くの生徒に参加してもらい活気のある学校にしていきたい。
			活動計画	⑩ 生徒会役員が中心となり、登校時に「あいさつ運動」を実施する。	活動計画の実施状況	⑩ 生徒会役員が火・金曜日の登校時に校門前で朝の「あいさつ運動」を実施した。また、生活委員会や交通委員会、野球部が月2回「あいさつ運動」を実施した。			

④

H30②-3

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針		
			評価指標と活動計画	評価	総合評価				
社会的自立のために必要な能力や態度の育成	③社会的自立のために必要な能力や態度の育成	総合学習科	評価指標	① 進路意識を高める行事や講演会等に主体的に参加する生徒の割合を80%以上とすることを達成する。(H29:72.0%)	① 学校評価アンケートで、進路意識を高める行事や講演会等に対して、主体的に参加した生徒の割合は、78.2%であった。	(評定) B	進路に対する情報発信が講演会や集会、HR活動をとおして適切な時期に実施されている。生徒の進路意識をさらに高め、高い目標に向かって意欲的に学習に取り組む生徒を育成してほしい。		
			② 各学年での小論文に関する取り組みに対して、アンケートによる生徒の満足度を83%以上とすることを旨とする。(H29:81.6%)	② 小論文の取り組みに対する生徒の満足度は73.3%から93.2%と幅があったが、平均して83.3%と目標を達成できた。					
		総合学習科	活動計画	① 総合的な学習の時間の計画において、生徒の実態に応じて進路意識を高める行事や講演会等の内容の改善を図り、生徒が主体的に参加することができるようにする。	① 学習を通して考えたことを書いてまとめたり、それを活かした面談等を重ねたりすることにより、自らの見つけ直しを促し、進路選択や実現への意識づけを行うことができた。	(所見) 進路意識を高める行事や講演会等を通して、生徒がこれからの学習活動や、ものの見方、考え方について考える機会となった。個人差は大きいですが、取り組みから受けた刺激が、その後の進路に対する主体的な姿勢や、取り組みに対する満足度につながった。			
			② 小論文に関する取り組みを、全学年の年間計画に位置づける。各ホームルームでの事前指導を経て、小論文模試を実施し、事後指導の後、アンケートで生徒の満足度を確認する。1・3年生では、事前指導の中で講演会も実施する。	② 学年担当やホームルーム担任を中心として、生徒の実態に応じた事前指導、小論文・志望理由書模試の実施、添削をもとにした事後指導を計画的に行った。講演会では、学年団の意見をまとめ、内容について講師とのやりとりを重ねた結果、生徒からも好評を得た。					
			進路指導課	評価指標	③ 生徒に進路情報を随時提供することができたか。			③ 進学希望、就職希望の両方に対応できるように、取捨選択しながら様々な情報の掲示や伝達を随時行った。	(評定) A
				④ 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上であったか。(H29:93%,95%)	④ 最終進路先に満足する生徒の割合が95%、進路指導に満足する生徒の割合は90%で、いずれも目標を達成した。				
	進路指導課	活動計画	③ 生徒に進路情報を随時提供する。 (「木鐸」年1回、職場体験やオープンキャンパス等各種案内随時)	③ 「木鐸」や進路ニュースの発行を通して本校独自の情報を伝えた。また、掲示や配布により様々な進路情報を提供した。	(所見) 情報の提供については配布時期や配布対象など計画通りに行えた。アンケート結果は目標が達成できた。				
		④ 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。	④ 進路指導室や就職指導室を活用して、できるだけじっくり話を聞きながら進路相談に応じた。						
	3学年共通	評価指標	⑤ 生徒と担任、学年団との面談を実施し、個別指導ができたか。	⑤ 1,2年担任はコース選択などについて、熱心に面談した。3年担任は進路実現に向けた面接指導などきめ細かい個別指導を行った。	(評定) A				
		⑥ 進路に関する講演会や学年集会を通して学力向上への意欲や、望ましい職業観の確立を図ることができたか。	⑥ 2月に実施した進路希望調査において、進路が未定の生徒は1,2年生とも0であった。講演会や進路集会などを通してそれぞれの目標を設定できていると考えられる。						
	3学年共通	活動計画	⑤ 全生徒と各学期に1回以上進路や学習、生活面についての面談をする。	⑤ 各学期の始めや進路希望調査のタイミングで、昼休みや放課後を利用して、個別面談を行った。	(所見) 進路説明会や小論文・志望理由書講演会において、生徒が自分自身の目標や課題について考えを深めた。3年生においてはほぼ生徒全員の進路が決定したので一定の効果はあった。				
		⑥ 講演会や学年集会を各学年3回以上開催する。(H29:1年生5回,2年生5回,3年生6回)	⑥ 年度当初と進路については各学年で集会を行った。その他、1年生は保健指導や制服着こなしセミナー、2年生は修学旅行、3年生は奨学金や年金について実施した。(H30:1年10回,2年5回,3年7回)						

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	進路指導課	評価指標 ① 定期考査期間中の平均家庭学習時間2時間以上の者が30%以上、かつゼロ時間の者がゼロである。(H29:2時間以上の者の割合は39%、ゼロ時間の者の割合は1%)	評価指標の達成度 ① 学習時間2時間以上の者の割合は40%、学習時間ゼロ時間の者の割合は1%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 日々の担任や教科担任の働きかけにより、少しずつ授業に対する生徒の姿勢や考え方が変化してきており、落ち着いた雰囲気の中で授業に臨むことができている。 また、昨年度に引き続き夏季休業中と冬季休業中に欠点取得者に対して基礎学力補充講座を実施した。一部遅刻したために受講できなかった生徒等もいたが、ほとんどの生徒がまじめに受講し、基礎学力の養成と、欠点解消に努めた。	学校全体が、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいることがわかる。明確な目標を持ち、主体的に学習に取り組む生徒が増加することを期待する。	○家庭での学習時間確保のための課題の内容や与え方及び学習習慣育成方法の検討 ○生徒が意欲的に学習に取り組むことができる環境づくり ○授業時間確保と、ステップアップトレーニングや基礎学力補充講座の有効活用及びその改善
		教務課	② 成績不振数の割合を、前年度1・2学期と比較して、減少させる。(H29:1学期は前年比較で増加。2学期は前年比較で半減。) ③ 成績不振者に対して、休業中に基礎学力補充講座を行う。出席率を100%にする。(H29:出席率は96%) ④ 授業時数確保に努め、出張・年休の授業振り替え率を90%以上にする。(H29:1・2学期で96%)	② 欠点取得者について、1学期は前年度から半減した。2学期についても、10人減となった。 ③ 1学期は全員出席(1科目不合格)だった。2学期は3名の欠席があったが、残りの生徒はそれぞれの課題を仕上げた。(出席率は91%) ④ 早めに出張・年休の連絡をしてもらうようにし、可能な限り時間割の振り替えを行った結果、92%の振り替え率になった。			
		進路指導課	⑤ 基礎基本の徹底を目標としたステップアップトレーニング(ST)の実施回数を可能な限り確保する。(H29:1年生:国(18),英(17),数(15) 2年生:国(17),英(18),数(15)) ⑥ 家庭学習時間を確保させるために、各教科でSTの実施曜日にあわせた家庭での課題を計画的に実施する。	⑤ 1年生で国語17回、英語19回、数学18回、2年生で国語20回、英語18回、数学18回を実施した。 ⑥ STの実施にあわせてあらかじめ課題プリントを配布するなど、各教科において家庭学習時間確保に取り組んだ。			
		進路指導課	活動計画 ① 学習時間調査を実施し、生徒に対する意識づけを行い家庭学習時間ゼロをなくす。	活動計画の実施状況 ① 考査時間割発表表から学習時間調査を実施し、計画的に学習ができるように学習時間表を配布し、担任の先生方にチェックと状況把握をしていただいた。			
		教務課	② 欠点を取らないよう、授業やホームルーム、集会等で学習意欲を喚起させ、授業態度や提出物等の指導をより徹底する。 ③ 長期休業中に基礎学力補充講座を実施し、復習課題を課し、学力補充に努めさせる。課題不備等のないように指導する。 ④ 行事などの精選を図るとともに、自習を減らし、授業振り替えをする。	② 日頃から全校集会や学年集会、授業などの際に進路指導主事や教務主任、学年主任、担任等から授業の大切さや学習の必要性などについて積極的に話をした。また、担任や教科担任に提出物の期限厳守の徹底をもらった。 ③ 昨年度に引き続き、欠点取得者に対して1科目につき1時間×5日の基礎学力補充講座を実施した。前もって準備した課題に対し、生徒たちも真摯に取り組み、欠点解消に努めた。 ④ 先生方のお出張・年休を早めに連絡していただき、授業の振替に努めた。			
		進路指導課	⑤ 年間行事計画に位置づけ、英語、国語、数学のSTを毎週水木金の朝に実施する。 ⑥ 1, 2年生におけるSTの課題、全学年における各教科の授業の課題を計画的、継続的に実施する。	⑤ 行事計画書にテスト期間等を除き、可能な限り組み込んだ。行事の関係で実施できなかったり曜日の関係で実施回数が教科によって差があるが出たのは改善点である。 ⑥ STの課題はSTの実施日にあわせて、授業補充の課題は週末を中心に課し、各教科における対応の中で提出物をこまめにチェックするなどして家庭学習の定着と基礎学力の向上を目指した。			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	国語科	<p>評価指標</p> <p>⑦ 漢字・語彙テストや古文単語テストの平均得点率7割以上の者を85%以上にする。(H29: 82%)</p> <p>⑧ 授業評価アンケートの「教科に関する興味・関心」「充実度」がある生徒の割合95%以上を目指す。(H29: 92%)</p> <p>⑨ 授業評価アンケートの「宿題をしている」生徒の割合を87%以上にする。(H29: 85%)</p>	<p>評価</p> <p>⑦ 平均得点率7割以上の者は87%であった。</p> <p>⑧ 「教科に関する興味・関心」「充実度」がある生徒の割合は92%であった。</p> <p>⑨ 「宿題をしている」生徒の割合は88%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 「教科に関する興味・関心」「充実度」は高いのだが、学んだことを広く応用することができていないように思われる。週末課題や提出物等はきちんと提出する習慣が定着してきている。漢字テスト等も毎週まじめに取り組んでいる者たちは基礎力が高まっているが、何度もやり直しをしている者が固定化してしまっている。グループ学習等は意欲的に取り組んでいた。</p>	<p>授業の中にグループ学習やペア学習を取り入れるなど、主体的な学習活動が展開されている。継続した取り組みを期待する。</p> <p>○与えられたことをきちんとすることは、ほぼできているので、自ら疑問点や問題点を見つけて思考する態度を伸ばしていきたい。例えば、一人一人もしくはグループそれぞれ違った部分を担当させて、調べたことや考えたこと、大事だと思える点等を他の生徒にレクチャーする時間を設ける等、授業の工夫をしていきたい。</p>	
		国語科	<p>活動計画</p> <p>⑦ 漢字テキストを家庭学習させて週に1回確認テストを実施する。2, 3年生は古文単語テストも実施し、合格しなかった者には繰り返し取り組ませる。</p> <p>⑧ 協働学習や発表により達成感や充実感を味わわせる。便覧・資料等を活用してより深く興味・関心を引き起こし、積極的な授業参加ができるよう配慮していく。</p> <p>⑨ 授業の内容にあったプリントや週末課題を配付し、家庭学習の習慣を身につけさせる。プリントや週末課題はファイルし、提出させて評価する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑦ 週に1回確認テストを実施した。間違えたところはやり直しをさせて合格するまで指導した。</p> <p>⑧ グループやペア学習を実施して、他者の意見を聞いたり、グループの意見をまとめて発表したりして、積極的な授業参加を促した。</p> <p>⑨ 週末課題や予習プリントを家庭で学習するよう配付した。きちんと仕上げ提出する習慣は身についたようである。提出物は平常点として評価した。</p>			
		地歴・公民科	<p>評価指標</p> <p>⑩ 授業評価の「興味・関心」「充実度」で、8割以上の生徒が満足することで、基礎的・基本的な学力の育成をはかる。(H29: 85%)</p> <p>⑪ 基礎的・基本的な学力を身につけさせるために、定期的にノート、プリント等を提出させる。提出率を100%にする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑩ 「興味・関心」「充実度」について、85%の生徒が満足していた。</p> <p>⑪ 定期テストごとのノート・プリント提出を定着させ、提出率100%を達成した。</p>			<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 授業の内容に即した時事問題を取り上げることで、社会事象に対する生徒の興味・関心を高めることができた。地図については自分でノートに描くことで、教科書を見るだけよりも理解が深まったように感じた。</p>
		地歴・公民科	<p>活動計画</p> <p>⑩ 毎時間一つは時事問題を取り入れ、授業内容と絡めて説明することにより、授業が世の中の出来事・動きと関連していることに気づかせ、興味・関心を持たせる。</p> <p>⑪ 基礎基本の定着をはかるため、定期テストごとにノートを提出させ、未提出の者には提出を促す。ノートを効率よくとれるよう板書計画を吟味する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑩ 毎時間、授業内容に即した時事問題を取り上げ、解説した。特に日本史・世界史の出来事との関連性を気づかせる事ができた。</p> <p>⑪ 昨年度まで小テストに充てていた時間を用い、授業内容に関連した地図や表の板書を増やし、理解度が高まるよう工夫した。その結果、ほとんどの科目で平均点が60点以上となった。</p>			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	数学科	評価指標	⑫ 1, 2年生のSTにおける正答率を70%以上にする。(H29の平均正答率(得点率):1年生71%, 2年生56%)	⑫ 科やクラス間で差があり、目標を達成できた回とそうでない回がある。平均正答率(得点率)は1年生, 2年生とも68%であった。	総合評価 (評定) B (所見) STへの取り組み方や意欲のばらつきが個人間で見られる。低得点の者が固定してしまっている。課題への取り組み方を向上させる指導を強化したい。できるといふ体験を増やすことにより、興味・関心も向上することにつながる。	
			⑬ 授業評価アンケートで数学の授業に興味・関心を持った生徒の割合を80%以上にする。(H29: 1年生84%, 2年生75%)	⑬ 興味・関心を持った生徒の割合は1年生70%, 2年生72%で目標を下回った。しかし全体的に授業には真面目に取り組んでおり、授業への意識を高めることはできた。			
		数学科	活動計画	⑫ STの課題を週末に配布し、家庭で学習してから金曜日の朝のテストを受ける流れを確立させる。	⑫ 課題への真剣な対応や提出を促すことにより、学力向上に努めた。しかし、答えを写すだけで終わって得点に結びついていない生徒への対応が不十分であった。		
			⑬ 毎時の目標を明確に示すとともに発問を多くしたり、協働学習を取り入れるなど、全員が授業に積極的に取り組んでいる態勢をつくる。	⑬ 協働学習は定着してきた。生徒同士が教え合ったり聞き合ったりすることで意欲はあがったと思う。またプリントによる授業展開も定着してきている。			
		理科	評価指標	⑭ ノート、プリント、課題、テスト直し等の提出・確認を細かく行い、その提出率を95%以上にする。	⑭ 課題等の提出物については期間内提出率が95%、粘り強く働きかけ、最終的には98%の提出率となった。		総合評価 (評定) B (所見) 課題やノート提出については教員側の働きかけにより前年度よりも良い結果になっている。ノートを取る習慣や家庭学習の習慣が無い生徒へのさらなる働きかけが必要であると考える。地球環境問題や災害など理科の内容に関わる記事は意外に多い。授業の進度と内容のリンクをさせるために紹介するタイミングなどを考える必要がある。
			⑮ 社会で取り上げられる理科関連のニュースを授業で取り上げることで、学習内容が現実社会と密接に関連していることを理解させ、学習意欲の向上に繋げる。	⑮ 気象災害等の防災についてなど身近な話題を科学的に考えることで選択教科等で積極的な学習態度を見せ、成績が向上する生徒が増加した。			
	理科	⑯ 生徒がやる気を持って試験に臨み、満足できる得点がとれるためのサポートを、必要に応じて考査前に行う。また、欠点取得者をゼロにする。	⑯ テスト前から生徒に働きかけ、自主的に残り勉強する生徒や部活での学習会で努力する生徒が増加した。欠点取得者は全体の2%程度となった。				
		活動計画	⑭ 一般用語、一般常識の理解定着を目指すためのきめ細かい指導と解説を行う。必要であれば小テストを行い定着率を確認する。ノートを効率的にとれるよう板書計画を吟味する。板書計画を行い、わかりにくくならないよう工夫する。また、検印するなど後から確認できるようにする。	⑭ 課題やノートの提出、点検や検印をこまめに行い、家庭で一定時間学習時間を確保する取り組みができた。ノートをとる習慣のない生徒への働きかけについても積極的に行った結果、課題の提出等の提出率の上昇(期日内提出率95%)につながっている。			
	⑮ ニュース・新聞等の記事から授業内容に即する内容でプリント等を作成する。記事中の単語、内容の解説を行い、基礎的な科学的知識の習得に努める。月2回程度の取り組みを目指す。	⑮ 環境問題や防災について新聞等の内容を活用し、教科書の内容に即した授業展開を行うことができた。年間の回数としては月2回の目標については達成している。					
	⑯ 生徒が試験勉強に取り組みやすいよう、出題範囲と出題傾向を適切に伝え、効率良い勉強方法を伝授するとともに、学習努力が得点に繋がる出題を心掛ける。	⑯ 授業内でテストで確認するための重要点を指示し、早期のテスト勉強に結びつく取り組みができた。学習習慣のない生徒への取り組みが今後の課題である。					

重点課題		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
基礎学力の向上を目指す	英語科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 1年生の週末課題やSTは年度当初に内容を検討し、生徒の学習習慣の定着や学習意欲の向上につながるよう計画した。しかし、回が進むにつれ内容が難しくなり、徐々に得点が低くなった生徒が多く見られた。2年生は、目標とした80点まであと数点という生徒が多かった。3年生は、進路決定が目前であったため、小テストにも意欲的に取り組み、成績を伸ばした。	生徒主体の活動を、積極的に取り入れた工夫がされている。今後も継続し、魅力ある授業を展開してほしい。	○全学年を通して、定期考査の勉強に熱心に取り組む生徒は多いが、日々こつこつと基礎・基本の定着を図ろうとする生徒はクラスや個人によって差がある。今後は、こつこつ取り組めない生徒への個人的な対応を考えたり、各生徒に学期ごとの目標を具体的に持たせるなど、少しでも生徒の取り組む意欲を育みたい。
		⑰ 1年生のSTの平均得点率6割以上の者を45%以上にする。(H29:44%)	⑰ STの平均得点率6割以上の者は37.4%で目標を達成できなかった。			
		⑱ 2年生の各学期末で80点以上(評定5)の生徒を40人以上にする。	⑱ 全クラス実施のコミュニケーション英語で、80点以上の生徒は、1学期30名、2学期29名で、目標を達成できなかった。			
	⑲ 3年生の1、2学期末で80点以上(評定5)の生徒を40人以上にする。(H29:1学期42名、2学期40名)	⑲ 全クラス実施のコミュニケーション英語で、80点以上の生徒は、1学期53名、2学期45名で、目標を達成できた。				
	活動計画	活動計画の実施状況				
	⑰ ・「English for Tomorrow」(中学校復習教材)を週末課題とし、計画的に取り組ませる。また、自主学習を促す。 ・STにより基礎・基本の定着をはかる。 ・結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。	⑰ 「English for Tomorrow」を週末課題とし、年間を通して計画的に取り組ませた。また、実力テストの範囲とすることで、目的を持って取り組むことができた。STの結果には個人差があるが、全体的に真面目な取り組みが見られた。結果は評価の一部に加味し、成績不振の生徒は個人指導を行った。				
⑱ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・単語テストを実施し、語彙力をつける。 ・テスト対策プリントで、考査前にポイントを復習させる。	⑱ 学習内容がますます難しくなる中で、各パートごとに重要語句の整理をした上で小テストを行うなどの取り組みを行った。考査前にはテスト対策プリントで学習のポイントを復習した。また、ペアやグループ活動など、生徒同士で学び合う活動も積極的に取り入れた。					
⑲ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・繰り返し暗唱・復習することを奨励する。 ・小テストの結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。	⑲ 3年生の授業では、重要なポイントの解説や単語・熟語の小テストなど、基礎・基本の充実を図り、結果は評価の一部に加味した。ペアやグループ活動など、生徒同士で学び合う活動も積極的に取り入れた。					

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	図書課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) ビブリオバトル大会、読み聞かせの会ともに、和やかな雰囲気に参加者には好評であった。1日平均利用人数、貸出冊数ともに少し減少した。よく借りに来る生徒がいる一方、全く図書館を利用しない生徒もいるようである。コンクール等へは国語科と連携し、出品した。読書体験記コンクールでは全国で優良賞に選出された。図書の購入に当たっては、生徒や教職員、各教科の購入希望にできるだけ応えるようにしている。	
			⑳ 全校読書会や読み聞かせの会の参加者を昨年度より増やす。(H29:参加者25名)	㉑ 全校読書会1回目ビブリオバトル大会は26名、2回目読み聞かせの会は26名の参加であった。		
			㉒ 家庭での平均読書時間10分以上の者を50%以上にする。(H29:47%)	㉒ 家庭での平均読書時間10分以上の者は45%と昨年より減少した。		
		図書課 国語科	⑳ 図書館の利用人数を昨年度より増やす。(H29:1日平均利用者数23.3人)	㉒ 図書館の1日平均利用人数は22.7人であった。		
			㉓ 図書館の本の貸出を昨年度より増やす。(H29:1日平均貸出数6.9冊)	㉓ 図書館の1日平均貸出冊数は5.5冊であった。		
			㉔ 読書感想文や各種コンクールの出品数や入賞者を昨年度より増やす。(H29:各種コンクール入賞者8名、学校賞1)	㉔ 読書感想文コンクールは県入賞5名、読書体験記コンクールでは全国で優良賞を受賞した。		
図書課	活動計画	活動計画の実施状況				
	⑳ 全校読書会や読み聞かせの会の実施案内を周知して、積極的な参加を促す。参加した生徒が次回も参加したいと思えるような企画にする。	㉑ 校内ビブリオバトル大会も3年目を迎え、図書委員中心ではあるが定着してきた。読み聞かせの会は、参加者全員が熱心に聞き入っていた。				
	㉒ 「朝の読書」の取り組みを十分に生かし、家庭での読書時間を増やしていく。学級文庫の活用や図書館の本をテーマ別に紹介して、読書へ誘う。	㉒ 朝の読書の時間を確保し、静かに読む習慣の定着を図った。学級文庫の本も追加購入して、本を手に取りやすい環境を作った。図書館では、作家別や話題の図書のコーナーを作り展示した。				
図書課 国語科	㉓ 授業での図書館利用を増やしたり、作家やジャンル別の企画展を実施して来館者を増やしていく。	㉒ 教科での使用や調べ学習で図書館が活用されている。				
	㉔ 教科・科目と関連した本を案内したり、推薦本を紹介したりして興味・関心を持たせ、貸出冊数の増加につなげていく。	㉓ 各教科からリクエストされた本を購入したり、小論文に多用されている本を購入したりして活用を促した。				
		図書課 国語科	㉔ 各種コンクールの案内を周知し、授業や部活動で作品を創作する時間を取るようにする。	㉔ 国語科と連携して各種コンクールに応募した。		

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画		評価			
活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	特別活動課	評価指標	① 自主的にボランティア活動を行った生徒が、全校生徒の60%以上だったか。(H29. 55%)	評価指標の達成度	① とくしまマラソン、名高パトロール、人権集会、石井町ボランティアフェスティバル、施設等への演奏会・作品展示などボランティア活動の内容は多岐にわたったが、参加人数は全校生徒の48.9%であった。	総合評価 (評定) B	部活動では、芸術科を中心に全国レベルの大会で優秀な成績を収めている。次年度もさらなる飛躍を期待する。部活動の入部率を増加させ、部活動の活性化を図ってほしい。
		特別活動課	活動計画	① 全校生に趣旨の徹底をはかるとともに自発的などりくみを推進する。	活動計画の実施状況	① ボランティアへの参加について、ホームルームや集会等において情報や趣旨を発信したことで、生徒の自発的な取り組みが見られるようになった。結果として、今年度とくしまマラソンボランティアの申込者が倍増した。		
	芸術科	評価指標	② 美術や書道作品の校内展示を通して、生徒の豊かな感性の伸長を図り、情操教育を展開する。	評価指標の達成度	② 校内に美術作品や書道作品を展示することにより、生徒や来校者に日頃の取り組みや、それぞれの生徒の持つみずみずしい感性を紹介できた。	総合評価 (評定) A	(所見) 多くの生徒が芸術科の生徒作品に触れることにより、芸術を身近に感じる良い機会となっている。	
	芸術科	活動計画	② 県内唯一の芸術科を持つ学校としてその有利性を発揮し、美術・書道の常設展示を行い、それぞれ学期に1回以上展示替えを行う。(H29 美術・書道併せて8回)	活動計画の実施状況	② 正面玄関を主とする常設展示作品替えを、美術・書道あわせて年間12回実施した。また、廊下の壁面を利用してデッサン作品を展示をするなど、生徒の日頃の学習活動を校内に発信できた。			
	特別活動課	評価指標	③ 全国大会に6名以上、四国大会に20名以上の出場を目標とする。(H29. 全国6名、四国19名)	評価指標の達成度	③ 全国大会に5名、四国大会に31名が出場し、目標を上回ることができた。	総合評価 (評定) A		
		特別活動課	活動計画	④ 高文祭では全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについては全国規模の入賞・入選数65を目標とする。(H29. 高文祭3部門、入選61)	活動計画の実施状況			
	特別活動課	評価指標	③ 全国大会に6名以上、四国大会に20名以上の出場を目標とする。(H29. 全国6名、四国19名)	評価指標の達成度	③ 全国大会に5名、四国大会に31名が出場し、目標を上回ることができた。	総合評価 (評定) A		
		特別活動課	活動計画	④ 高文祭では全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについては全国規模の入賞・入選数65を目標とする。(H29. 高文祭3部門、入選61)	活動計画の実施状況			
	特別活動課	評価指標	③ 全国大会に6名以上、四国大会に20名以上の出場を目標とする。(H29. 全国6名、四国19名)	評価指標の達成度	③ 全国大会に5名、四国大会に31名が出場し、目標を上回ることができた。	総合評価 (評定) A		
		特別活動課	活動計画	④ 高文祭では全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについては全国規模の入賞・入選数65を目標とする。(H29. 高文祭3部門、入選61)	活動計画の実施状況			
特別活動課	評価指標	③ 全国大会に6名以上、四国大会に20名以上の出場を目標とする。(H29. 全国6名、四国19名)	評価指標の達成度	③ 全国大会に5名、四国大会に31名が出場し、目標を上回ることができた。	総合評価 (評定) A			
	特別活動課	活動計画	④ 高文祭では全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについては全国規模の入賞・入選数65を目標とする。(H29. 高文祭3部門、入選61)	活動計画の実施状況			④ 高文祭においては、美術・書道・吟詠剣詩舞が全国へ。全国規模の入賞も書道を中心に入選入賞数は66となった。	
特別活動課	評価指標	③ 全国大会に6名以上、四国大会に20名以上の出場を目標とする。(H29. 全国6名、四国19名)	評価指標の達成度	③ 全国大会に5名、四国大会に31名が出場し、目標を上回ることができた。	総合評価 (評定) A			
	特別活動課	活動計画	④ 高文祭では全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについては全国規模の入賞・入選数65を目標とする。(H29. 高文祭3部門、入選61)	活動計画の実施状況			④ 高文祭においては、美術・書道・吟詠剣詩舞が全国へ。全国規模の入賞も書道を中心に入選入賞数は66となった。	

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価	総合評価			
活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	国際課 英語科	評価指標	⑤ 外国の文化・慣習等に興味・関心を持ち、国際交流への意識を高めた生徒の割合を65%以上にする。(H29:63.2%)	⑤ 全校生徒対象のアンケートで、65.0%の生徒が国際交流への意識を高めたと考え、目標を達成できた。	(評定) B (所見) 今年は直接海外の高校生とふれあう機会は持てなかったが、ALTによる授業や課外での英会話講座を通して、国際理解を深めた。1年をかけてドイツとの交流を案内したところ、来年度のドイツ研修旅行には12名、ドイツ高校生ホストファミリーには14名の希望があった。国際理解教育講演会では、講演後約20名の生徒が安田さんのもとを訪れるほどで、感想文からも生徒の国際理解と人権意識が深まったことがうかがえた。	生徒の国際理解や人権感覚が高まっていくような異文化交流の機会を持ち、生徒の国際交流への意識向上を図ってほしい。	○次年度も生徒の国際理解を深めるために、日常的な取り組みを積み重ねるつもりである。また、現在「時事英語」の授業で、アメリカの高校生とのペンパルプロジェクトを充足させているところであり、来年度「GU」選択者を対象にプロジェクトを実施する予定である。次年度はドイツからの訪問団の受け入れとドイツ研修旅行という大きな行事が2つあるので、しっかりと準備をしておく必要がある。
			⑥ 生徒の国際理解を深めるために、全校生徒対象の講演会を1回以上開催する。(H29:1回)	⑥ 全校生徒対象の講演会を1回開催し、目標を達成できた。				
			⑦ 海外留学やホームステイ、国内での英語を使った交流体験など、国際交流事業への参加者を10名以上にする。(H29:14名)	⑦ ジュニア観光ボランティアガイド、弁論大会、四国大学との連携セミナー、国際サマープログラム(HLAB)などに9名の参加があった。目標の10名は達成できなかった。				
		国際課 英語科	評価計画	⑤ ALTの授業を全クラス最低2週間に1回は行う。	⑤ 学期ごとにティームティーチングの計画を立て、急な出張の際にも振替を行った。特別時間割を除くと目標は達成された。			
		⑥ 外国の方や海外経験の豊富な日本人を招き講演会を実施する。	⑥ フォトジャーナリストの安田業津紀さんを講師に迎え、人権教育課と連携し、国際理解教育講演会を実施した。「写真で伝える紛争地の子どもたち」という演題で講演いただき、生徒の興味・関心や理解をさらに深めることができた。					
		⑦ 国際交流の募集案内を全校生徒に積極的に行うとともに、生徒の進路に応じて個別に参加を働きかける。	⑦ 募集案内を教室掲示するだけでなく、英語の授業で積極的に参加を呼びかけた。また、外国語や国際の分野に進学を希望している生徒には個別に働きかけた。					

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	総務課	<p>評価指標</p> <p>① 保護者と生徒、教職員が協力して校外清掃奉仕活動や、校内美化活動を行う。</p> <p>② 文化祭・体育祭に、PTA役員を中心として多くの保護者が参加し、教職員と連携して生徒の諸活動を支える。</p> <p>③ 校外における各種研修、大学訪問研修に多くの保護者が参加し、諸問題について理解を深める。</p> <p>④ 全会員にPTAの活動についての報告・広報を年間5回以上する。</p> <p>⑤ 藤花同窓会と学校が連携して充実した同窓会活動を実施する。藤花同窓会の活動について、在校生や地域に周知・広報し、総会・懇親会に多くの会員が参加する。(H29年度総会24名・懇親会88名参加)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① PTA役員、総務課員が協力して清掃奉仕活動に当たった。</p> <p>② 事前の周知を徹底し、役員会を開催し、多数のPTA役員・会員が名高祭に参加して、円滑な運営のサポートができた。</p> <p>③ 校外の県高P連、生指協等関連の各種研修に役員を中心として参加し、諸問題についての理解を深めることができた。</p> <p>④ 行事の様子については随時HP上に掲載し、PTA通信・校誌でも報告した。</p> <p>⑤ 同窓会の役員会・総会等で在校生の諸活動についてご案内・ご報告をした。全国大会への生徒出場に対する激励金をいただいたり、横断幕の新調などのご支援をいただいた。(総会出席者26名、懇親会93名参加)</p>	総合評価 (評価) B (所見) PTA・同窓会とともに、会員・役員を中心として、学校や教職員と結束して、地域と連携しながら、活動に取り組んでいただいた。	<p>地域の同窓生や元PTAの方々の中には、機会があれば学校行事に協力してもよいと考えている方もいる。地域社会の活用を積極的に進めてほしい。</p>
		総務課	<p>活動計画</p> <p>① 石井駅周辺の通学路、および校内での美化活動に、参加を呼びかける。(H29年度参加者5名)</p> <p>② 文化祭での模擬店出店、体育祭での麦茶・スポーツドリンク提供について、全保護者に参加を呼びかける。(H29年度模擬店・麦茶提供延べ55名参加)</p> <p>③ 県高P連、生指協連絡協議会等の総会・研修会等への参加について適宜ご案内する。また、大学訪問を実施し、進路について理解を深める。(H29年度校外研修30名参加、大学訪問15名参加)</p> <p>④ 5月の総会で事業報告・事業計画を提案する。「PTA通信」を発行し、年間の活動について全会員に報告をする。HPに行事への参加案内や報告を掲載する。</p> <p>⑤ 10月の藤花同窓会総会・懇親会では役員および卒業30周年の会員を中心に参加を広く呼びかける。諸活動の円滑な実施のため、役員会を年3回開催する。同窓会キャラクターの「くおんちゃん」クリアファイルを制作し、広く配布して同窓会のシンボルとして周知を図る。卒業式前日に同窓会入会式を実施し、各クラス理事に委嘱状を手渡し、同窓会会員となる自覚を促す。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 2学期末にPTA役員が校内で清掃奉仕活動に参加できた。(参加者3名)</p> <p>② 三者面談で案内を手渡し、周知徹底した結果、生徒数減にも関わらず、多数の保護者が文化祭・体育祭に参加できた。(模擬店・麦茶提供延べ50名参加)</p> <p>③ 高P連中四国大会愛媛大会は開催中止となったため、県外研修の参加はなかった。また、大学訪問も台風の為中止となって実施できなかった。(校外研修21名参加)</p> <p>④ 総会の案内は全会員に配布した。前年度の事業報告・本年度の活動計画については5月総会で行った。年間の活動報告は「PTA通信」17号や校誌で行った。</p> <p>⑤ 10月の総会、懇親会は第39回卒業生と合同開催した。全国大会出場に対する激励金(延べ42名分)や演奏会・展示会へのご支援(5会場)をいただき、横断幕を新調していただいた。くおんちゃんクリアファイルを制作し、本校のシンボルとして周知を図ることができた。同窓会入会式では14名の役員からクラス理事に委嘱状を手渡し、同窓会入会の自覚を促した。</p>		<p>○HPで行事ごとに告知や報告を必ずする。</p> <p>○校外研修だけでなく、校内での各種講演会に保護者に参加いただけるよう、各課と連携してご案内を徹底する。</p> <p>○地域社会と連携し、開かれた学校づくりの土台となるPTA・同窓会活動となるよう、行事や事業を精選して取り組んでいきたい。</p>

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	教務課	評価指標	⑥ 「入学案内」について、本校教育の内容をわかりやすくまとめ上げ、説明会等の資料に積極的に活用する。	評価指標の達成度	⑥ 全体のイメージなどはこれまでのものを踏襲し、中身を新しいものに差し替えて作成した。各中学校での説明会はもちろん、様々な機会に中学生やその保護者等に配付し、本校の魅力の紹介に役立てることができた。	総合評価 (評定) B (所見) 本校の魅力の一端を伝えることはできたが、まだまだ伝えきれていない部分もある。今後も今年度の反省を踏まえ、次年度に活かしていきたい。
			活動計画	⑦ 体験入学の参加生徒や保護者に、本校の教育内容や特色をわかりやすく説明する。H29体験入学アンケート結果(よい以上-生徒91%, 教員・保護者81%)を上昇させる。	⑦ 本校生徒主体のオリエンテーションや教師主導の体験授業を実施し、本校の魅力を伝えることができた。(H30アンケート結果:普通以上・・・生徒99%, 教員・保護者・・・95%, よい以上・・・生徒92%, 教員・保護者・・・95%)		
		教務課	活動計画	⑥ 「入学案内」の構成や情報内容を改良するとともに、常に最新の情報に更新していく。また、依頼のある中学校には配布する。	活動計画の実施状況	⑥ 写真や在校生・卒業生の声、教育課程、進路状況などの中身を新しいものにして作成した。依頼のあった全ての中学校に配付するとともに、他の行事などにも積極的に活用した。	総合評価 (評定) A (所見) 各課や部活等で活発な生徒活動が行われており、情報発信できる内容はまだまだある。それぞれの担当で情報発信が行えるよう研修を行う必要がある。
			評価指標	⑧ 学校行事や部活動等の様々な取組みをホームページで頻度多く掲載する。月に12回以上の更新を行う。(昨年度最少更新月回数10回)	⑧ 学校行事や芸術科の催事など殆どの月で目標達成となった。行事後に速やかに掲載できたと考える。(最少更新月10回、未達成月は2ヶ月)		
		情報視聴覚課	活動計画	⑧ 各課に更新作業の出来る教員を増やし、学校行事や部活動の取り組み等を紹介する。	活動計画の実施状況	⑧ 各課、各部の更新については目標を達成できているが、部活動等の取り組みについてはさらに更新できるように努力する必要がある。	総合評価 (評定) A (所見) 芸術科の取り組みを地域に積極的に発信することで、新たな取り組みが生まれ、生徒たちの自己肯定感の向上につながった。
		芸術科	評価指標	⑨ 校外での展覧会・音楽会等の広報活動(ホームページ・ポスター・新聞)を迅速に行い、展覧会・演奏会に在校生や多くの観客を動員する。	評価指標の達成度	⑨ 展覧会や演奏会についてホームページやポスター掲示による広報活動を行った。昨年度より展覧会や演奏会における本校生徒の鑑賞者が増加した。	
	芸術科	活動計画	⑨ 地域社会での文化祭、展覧会、文化行事などに年間6回以上参加する。	活動計画の実施状況	⑨ 地域での美術・書道作品展や演奏会を(巡回展6回、演奏会4回、老健施設での作品展1回、文化祭等4回)実施した。	総合評価 (評定) A (所見) 芸術科の取り組みを地域に積極的に発信することで、新たな取り組みが生まれ、生徒たちの自己肯定感の向上につながった。	
		評価指標	⑩ 県内唯一の芸術科を有する学校として、地域社会と連携し生徒の技術力をいかした芸術・文化の発信に寄与する。	⑩ 本年度は新聞紙上に芸術科生徒の活躍が多く掲載されたことにより、新たな地域での社会貢献の場があった。			
	芸術科	活動計画	⑩ 地域社会と連携し、校内・校外で展覧会・演奏会を年間5回以上、小・中学生に向けた体験学習を年間6回以上実施する。芸術科部活動見学会を実施する。	活動計画の実施状況	⑩ 地域と連携した展覧会や演奏会を15回実施した。サポーター制度をいかした取り組みは5回、小中学生のための体験学習は7回実施した。また芸術科部活動見学会には県内の中学生111名が参加した。	総合評価 (評定) A (所見) 芸術科の取り組みを地域に積極的に発信することで、新たな取り組みが生まれ、生徒たちの自己肯定感の向上につながった。	
	情報視聴覚課	活動計画	⑧ 各課に更新作業の出来る教員を増やし、学校行事や部活動の取り組み等を紹介する。	活動計画の実施状況	⑧ 各課、各部の更新については目標を達成できているが、部活動等の取り組みについてはさらに更新できるように努力する必要がある。		

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策					
			評価指標と活動計画	評価							
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	生徒指導課	<table border="1"> <tr><th>評価指標</th></tr> <tr><td>⑪ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全のため、パトロールや挨拶運動、美化活動を年30回以上実施する。(H29, 32回)</td></tr> </table>	評価指標	⑪ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全のため、パトロールや挨拶運動、美化活動を年30回以上実施する。(H29, 32回)	<table border="1"> <tr><th>評価指標の達成度</th></tr> <tr><td>⑪ 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど33回、意欲的に活動した。</td></tr> </table>	評価指標の達成度	⑪ 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど33回、意欲的に活動した。	総合評価 (評定) A (所見) 交通安全キャンペーンの実施や運動部員がキャップをかぶり、学校周辺のランニングを行いながら名高パトロールをするなど、地域の安全に貢献することができた。また「無事カエル」のキャンペーンは交通安全国民運動中央大会で表彰された。生徒に社会の一員である自覚を育てるとともに、地元から信頼される学校となるためにも活動を継続・発展させていきたい。	長年の交通安全運動キャンペーンの功績が認められ、全国表彰されたことは大変喜ばしい。今後もさらに活動を充実させ、地域との連携を密にした取り組みを推進してほしい。	○県内でも名西高校独自の取組ともいえる名高パトロール隊の活動をさらに充実させ、地域から信頼される学校にしていきたい。 ○30年継続して作成されている「無事カエル」の意義を浸透させ、製作に対しての意識を向上させたい。
		評価指標									
		⑪ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全のため、パトロールや挨拶運動、美化活動を年30回以上実施する。(H29, 32回)									
		評価指標の達成度									
⑪ 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど33回、意欲的に活動した。											
生徒指導課 家庭科	<table border="1"> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr><td>⑫ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。</td></tr> </table>	活動計画	⑫ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。	<table border="1"> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr><td>⑫ 春と秋の全国交通安全運動期間に徳島名西署と連携して、街頭キャンペーンを実施した。秋の運動では家庭クラブが作成したマスコット(無事カエル)をドライバーに配布する街頭キャンペーンを実施した。</td></tr> </table>	活動計画の実施状況	⑫ 春と秋の全国交通安全運動期間に徳島名西署と連携して、街頭キャンペーンを実施した。秋の運動では家庭クラブが作成したマスコット(無事カエル)をドライバーに配布する街頭キャンペーンを実施した。					
活動計画											
⑫ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。											
活動計画の実施状況											
⑫ 春と秋の全国交通安全運動期間に徳島名西署と連携して、街頭キャンペーンを実施した。秋の運動では家庭クラブが作成したマスコット(無事カエル)をドライバーに配布する街頭キャンペーンを実施した。											
生徒指導課	<table border="1"> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr><td>⑪ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動を適宜実施する。</td></tr> </table>	活動計画	⑪ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動を適宜実施する。	<table border="1"> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr><td>⑪ 徳島名西署や青少年育成センターと連携を図りながら、清掃活動や部活動時のパトロール、校門前での挨拶運動など様々な取組を実施した。</td></tr> </table>	活動計画の実施状況	⑪ 徳島名西署や青少年育成センターと連携を図りながら、清掃活動や部活動時のパトロール、校門前での挨拶運動など様々な取組を実施した。					
活動計画											
⑪ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動を適宜実施する。											
活動計画の実施状況											
⑪ 徳島名西署や青少年育成センターと連携を図りながら、清掃活動や部活動時のパトロール、校門前での挨拶運動など様々な取組を実施した。											
生徒指導課 家庭科	<table border="1"> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr><td>⑫ 徳島名西署と連携を図り、交通委員会がキャンペーンを実施する。また秋の交通安全キャンペーンでは学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。</td></tr> </table>	活動計画	⑫ 徳島名西署と連携を図り、交通委員会がキャンペーンを実施する。また秋の交通安全キャンペーンでは学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。	<table border="1"> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr><td>⑫ 徳島名西署や交通安全協会と連携を図り、秋の交通安全運動キャンペーンに参加し、家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパフレットと一緒に配布した。</td></tr> </table>	活動計画の実施状況	⑫ 徳島名西署や交通安全協会と連携を図り、秋の交通安全運動キャンペーンに参加し、家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパフレットと一緒に配布した。					
活動計画											
⑫ 徳島名西署と連携を図り、交通委員会がキャンペーンを実施する。また秋の交通安全キャンペーンでは学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。											
活動計画の実施状況											
⑫ 徳島名西署や交通安全協会と連携を図り、秋の交通安全運動キャンペーンに参加し、家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパフレットと一緒に配布した。											

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	⑦文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	情報視聴覚課	評価指標	① 各行事の結果等については、実施日から3日以内の更新を心掛ける。生徒の活動の様子等の紹介を月3回程度を目標に更新する。(平成29年度最少月更新数3回)	評価指標の達成度	① 行事や生徒活動のweb掲載について3日以内の更新についてはほぼ達成できている。生徒の活動については達成できていない月がある。(平成30年度最小更新数1回 達成度75%)	総合評価 (評定) B
			活動計画	① 行事の記録を確実にし、タイムラグなく地域に発信を行う。そのために情報発信に関する研修を行う。	活動計画の実施状況	① 個々の活動の記録担当を明確にし、記録者が更新できるように研修を行った。	
		芸術科	評価指標	② リーディングハイスクールの取り組みを通して、音楽・美術・書道の技術力を活かした活動を積極的に校外・地域へ発信する。(H29 10回) 異校種間交流を音楽・美術・書道で年1回以上実施する。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、ホームページやさまざまな機会を通じて効果的に案内・広報を行う。	評価指標の達成度	② リーディングハイスクールの取り組みや活動内容を校外へ効果的に発信できた。(H30 15回) また、芸術科会議を定期的に開催し行事等への共通理解や協力体制を強化した。異校種間交流を音楽・美術・書道で8回実施した。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、ホームページや新聞、地元広報誌やCATVなどを通じて効果的に案内・広報できた。	総合評価 (評定) A
			活動計画	② 校内での演奏や作品展示をはじめ、校外での演奏会や作品展を行い生徒の持つ芸術力をアピールする。異校種間での作品交流等を実施し芸術科の持つ魅力を発信する。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、音楽・美術・書道それぞれが迅速にホームページに更新し、積極的に地域に案内・広報を行う。(H29 芸術科36回HP更新)	活動計画の実施状況	② 校内外での展覧会や演奏会をとおして、生徒の持つ芸術力を発信できた。夏休みや冬休みを利用した異校種間連携にも積極的に取り組んだ。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、ホームページに更新し、積極的に地域に案内・広報を行った。(H30 芸術科48回HP更新)	(所見) 集客力のある量販店での作品展の開催や、大学施設を利用した演奏会などとおして県下唯一の芸術科としての活動を発信できた。

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	⑧防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	環境教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	南海トラフ地震への関心も高まっている。特に地震を想定した訓練の充実を図ってほしい。	○何か新しい防災関連の取り組みを模索したい。また防災か、とまらない努力が必要だと感じる。
			① 避難訓練を年2回実施する。	① 5月・12月の2回実施できた。	(評定) A		
			② 外部機関と連携した防災教育を実施する。	② 石井消防署と連携して消火器体験やシューターによる避難体験を実施。	(所見) 防災関連の活動は今年も例年通り実施できた。しかし、例年通りというのが不安材料にもなる。		
			③ 防災クラブの活動を十分に行う。	③ 文化祭での防災展示、非常食の試食会を実施。	マンネリ化しないよう、新しい活動を取り入れていかなければいけないと感じる。		
			活動計画	活動計画の実施状況			
			① 緊急時に適切な行動がとれるようにするため、地震・火災を想定した避難訓練を実施する。	① 5月に地震想定、12月は火災想定での避難訓練を実施した。			
	② 安全確保に対する意識を高めるため、防災教育を充実させる。	② 文化祭における防災展示で意識高揚をはかった。					
	③ 防災クラブの活動として、1・2学期末に防災活動を積極的に行う。	③ 12月に非常食試食会を実施。					
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価				
	④ ゴミの分別をすることがECOにつながることを自覚させる。	④ 集会時に呼びかけを何度か行った。	(評定) A	○年ごとに生徒数が減少する見込みの中で、いかに清掃を分担し、校内・校舎外の美化に努めるかが課題である。一人一人の負担がかなり大きくなると思われる。			
	⑤ 環境を整え学習効果をあげるとともに、美化を推進する。	⑤ 普段の清掃を生徒・教員ともに積極的に行ってくれている。	(所見) ゴミ分別チェック表の活用ができなかったが、特に清掃など、生徒数の減少により厳しい条件の中、教員・生徒ともに校内美化に積極的に活動してくれている。				
	⑥ 地域の美化に貢献する気持ちを育て、奉仕の精神を養う。	⑥ 校内を見る限り、美化に貢献する気持ち、奉仕の精神はよく育てていると感じる。					
活動計画	活動計画の実施状況						
④ ゴミ分別チェック表を毎月1回提出する。	④ チェック表の活用ができなかった。						
⑤ 月に1回大掃除を実施する。	⑤ 月1回以上の大掃除を実施できた。						
⑥ 1, 2学期末に校外奉仕活動を積極的に行う。	⑥ 7月、12月に校外清掃奉仕活動を実施し、地域に貢献できた。						